

令和4年度 長野県支部の定期総会・研修会の開催について

長期にわたるコロナ禍のため数年間対面会議の自粛を余儀なくされていましたが、令和元年以降3年振りに対面会議による長野県支部定期総会並びに研修会が、7月17日（日）に松本市の「ホテルモンターニュ松本」で開催されました。定期総会にはコロナ第7波が危惧される中、そして公務ご多忙中にもかかわらず本学から川上泰学長、本部同窓会から福山守会長にご臨席を賜りました。また、準会員（本学を卒業した本県出身の本学教授など）の生命・環境科学部の古畑勝則教授、荻原喜久美教授にも駆けつけていただき、総勢28名の参加により、本年度の事業・収支予算案など全議案が満場一致で承認されました。総会に続く研修会は、川上学長に講師をお願いし「麻布大学の現状（学部学科改組の実施）」についてご講演をいただきました。時代のニーズに呼応した学部学科改組という難題に果敢にチャレンジしていく本学の姿勢に会員一同感銘を受けました。

総会、研修会終了後の懇親会には川上学長、福山会長や古畑教授にもご参加いただきました。マスク会食での多少窮屈な宴会でしたが時間の経過とともに盛り上がり、会員の皆様も久々の再会を満喫し楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

最後になりますが、川上学長、福山会長におかれましては、本県会員のためにご都合を付けていただき、誠にありがとうございました。衷心よりお礼申し上げます。

長野県支部 事務局 平沢久史

